

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 花しょうぶ苑
(ユニット名)	グループホーム 花しょうぶ苑
所在地 (県・市町村名)	三重県亀山市本町1丁目2-12
記入者名 (管理者)	村田照代
記入日	平成 19年 10月 5日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	誰もが慣れ親しんだ地域や自宅で家族などが見守る中で生活でき、家族が犠牲を強いられることなく利用者が日々、明るく元気に過ごすことができ地域に根ざしていくことを理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には理念を伝えると共に施設の様子や雰囲気を理解してもらっている。職員は、利用者が地域に根ざし明るく和気あいあいと日々過ごせることを念頭に日常のケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	慣れ親しんだ地域での生活を利用者が望み、そして元気になるかを家族会や地域行事の折にふれ、紹介したり話したりして家族や地域の人々の理解が深められるように努めている。	○ 今後も地域の人々の理解が得られるように努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時に挨拶や声を掛け合っている。また、移動販売車来苑時に近所の方たちと会話したり、自家製野菜を持って立ち寄ってくださる方もあって一緒にお茶を飲んでいかれることもある。	○ 職員等は地域の住民として今まで同様気軽なお付き合いをしていきたいと思っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生が鉢植えを持って訪問してくれたり、高校の体育祭に招待され観戦させてもらっている。また、地域の祭り等にも声を掛けて頂き参加させてもらっている。	○ 小、中、高校生との交流は何年も続いている。今後は自治会、老人会との交流も考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が認知症の家族等の相談に訪れることもある。また、年に何度か小、中、高校生の見学や実習も受け入れている。		
見学				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は会議やミーティング時に話し合いながら取り組んでいる。また、評価結果は改善に向けて職員と話し合いながら日常のケアの向上に努めている。	○	全員で評価に取り組み改善し年々評価は高まってきており継続していきたい。利用者が心からくつろげ、そして安心して過ごせる場を作って生きたいと考えている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設側から現状や諸々の報告をし、参加メンバーからは意見や要望、質問を出してもらい話しあっている。また、地域からの情報も頂きサービスの向上に役立っている。	○	ひとりでも多くの方に参加していただけるような日程の調整を今後も行なっていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定更新手続きや各種会議で市役所を訪れ市担当者と顔を合わせることも多く、相談や提案などしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常的に職員に話をしている。また、研修に参加した者は会議等の場で説明し職員の質問なども受けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に職員に話をしている。また、身体的にはもちろんのこと言葉の暴力による虐待はないか、職員同士が話し合い注意しあっている。	○	今後も継続していくと共に勉強会も行なっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前に何回も話し合う機会を持ったり、施設の見学をして頂き不安や疑問などその都度対応し契約。また、解約時にも時間をかけて説明し十二分に理解して頂くように留意している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度介護相談員に来てもらい利用者の話を聞いてもらっている。また、運営推進会議に利用者が出席し話をしてもらっている。	○ 介護相談員との懇談を年1回行なっており結果や感想を更に運営に活かしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時に日常の様子の報告や写真等を一緒に見てもらっている。また、金銭管理は出納帳に出入を記入しご家族に見てもらいサインを頂いている。訪問が少ない家族には電話で日常の様子を伝えると共に訪問をお願いしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑便りの紙面でお知らせしたり、運営推進会議、家族会や家族の訪問時に何でも話していただけるように伝えている。また、意見や苦情等は会議で話し合い運営やケアの向上に努めている。	○ 今後も苑便りでお知らせすると共に管理者や職員は家族が話しやすい環境を心がけていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行いその場で意見や要望を聞いている。時にはお茶を飲みについたりして職員間のコミュニケーションが図れるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は職員の急病などに備えてシフトに入れずに昼夜対応できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は3年、職員も1年半以上移動はなく利用者ともすっかり馴染みになっている。以前から職員交代時には利用者が混乱しないようにベテランの職員と共にシフトに入ってもらいなどの配慮をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等が可能な限り受けられるような勤務体制に留意している。また、資格取得や研修費を負担するなどスキルUPできるような援助体制もとっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の地域密着型事業者と2～3ヶ月に一度施設運営について問題点を共有し、意見交換会を行っている。また、地域の同業者とネットワークを作り、ショッピングセンターでの作品展を行い、準備から終了後の反省会まで何度も話す機会があり意見交換などもしている。サービスの質の向上を目指し勉強会等も開いており日々の業務に役立っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は仕事やプライベートなど気軽に相談できる雰囲気作りを心がけており、変化等に気づいた時にはこちらから声を掛けるようにしている。また、食事会などで気分転換が図れるように親睦の場を作ったりもしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は毎日顔を出し、管理者はシフトに入り仕事をすることもあり職員の心身の状態や仕事の状態等も把握している。また、研修案内は回覧し職員の希望や意向を聞きながら研修が受けやすいようにシフトを組んでいる。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談にみえたときには本人の思いを良く聴いている。また、利用に至るまで本人、家族と共に何度も施設を訪問してもらい、施設の様子や雰囲気を知ってもらったり、本人が安心してできるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同居家族や関係者から相談に至るまでの苦労話などをじっくり聞くことにより、入所後のケアの方向性も家族と共に話し合うことができ、信頼関係が作れるように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	○	再度家族の思い等を聴きながら少しずつでもより良い関係に繋がられるようにしていきたい。
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	○	心身の機能が低下してきた場合でも家族と相談しながら馴染みの関係が途切れないように支援していきたい。
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後(入院や他施設入所)も病院や施設を訪問したり、家族に様子を尋ねたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人の思いや意向など機会あるごとに本人と話をしたり、普段の生活状況の中から観察すると共に、家族や知人などから話を聞き把握できるように努めている。	○	折にふれ、各人が望んでいること(嗜好、一時帰宅など)を時間をかけて希望を表せるように働きかけていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前には家族に生活歴を聞くことはもちろんのこと、日頃の生活のなかで本人から今までの暮らしぶりをよく聞いている。時には家族の知らないことも話して下さりびっくりすることもある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者の毎日の生活のリズムを把握しているが、日によって心身の状態が変化することもあるので注意深く見守り、状態に応じてできる範囲でできることをしていただくように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の関わりの中で各人の思いや希望、また家族の希望なども聞き、担当者会議で職員と話し合いながらそれぞれの思いに添えるような介護計画を作っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の担当者会議で利用者の心身の状態に変化はないか話し合っており、家族の訪問時には現状を報告すると共に、家族からみた利用者の様子や希望、要望を伺っている。また、状態に変化が生じたときも速やかに家族や関係者とケアの方法を話し合い介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録記入のほか、必要に応じ連絡ノートや様々なチェック表などを作成するなど全職員が情報を共有し、利用者が暮らしやすくなるように介護計画の見直しを行っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回、協定医の往診や体調不良時の上申や受診にもすぐに対応できるようになっている。また、急な入院時は家族が見えるまで看護師が付き添い家族に引き継ぐようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小、中、高校生の見学や実習の受け入れや、避難訓練時には消防署員に来てもらったり、民生委員が相談や見学にみえたり、ボランティアの方にも来てもらったりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市民が利用できる足湯に行くこともある。また、隔月に地域の床屋さんにも訪問してもらいそれぞれが思い思いの髪型にしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員、自治会長、民生委員も参加しており地域サービスの現状等を聞いたり、情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとして利用者も非常に親しみ信頼しており24時間指示を受けられる体制をとっている。必要に応じ総合病院の紹介を受け適切な診察や治療を受けられるようになっている。また、随時往診等にも対応してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在まで終末期を迎えた利用者はいないが、早くから本人、家族等の意向を確認し、本人、家族等、協定医、看護師、事業所等のケアの関係者が話し合いを繰り返し、安心して終末期を過ごして頂けるように取り組んでいきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>本人や家族の意向に沿って、医師や職員などケアの関係者等がチームで連携を図り、何度も話し合いを持ちながら安心して最期を迎えられるように取り組んでいきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折にふれ利用者は親や身内、人生の先輩として尊厳を持って接するようにはなしている。また、個人の記録などの情報は全職員が細心の注意を払い取り扱うようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	新聞やテレビなどの情報から外出や旅行などの行き先を考えてもらったり、誕生日会のやり方や食事の内容を考え、決めてもらったりしている。また、意思表示が苦手な方にはいろいろ例を挙げて決めてもらうようにしている。	○ 折にふれ、各人が望んでいること(嗜好、一時帰宅など)を時間をかけて希望を表せるように働きかけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人の心身の状態を考慮し、本人の希望等に応じて散歩や外出に出かけたり、居室でゆっくり過ごしてもらったりしている。また、家族や知人の訪問で話に花が咲き食事が遅くなったりすることもあるが本人が心地よく時間を過ごせることが一番だと考えている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服の買い替えは自分で選んで買えるように同行し見守っている。外出や旅行前には服が決まらず相談を受けることもある。また、地域の床屋さんに出張してもらい、格安で希望の髪形にしてもらっている方もあれば、外出時になじみの美容院に行かれる方もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と一緒に相談しながらたてている。また、近所の方からもらった泥野菜もみんなできれいにし調理している。食事は利用者と同じテーブルで同じものを楽しく頂いており、食後は個々のできる範囲で後片付けをして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各人の症病歴に応じ対応できる範囲でおやつ、飲み物等を提供している。お酒等は新年会等の行事や旅行、外食時に楽しめるようにしている。	○ 外出時などバイキング形式での食事を楽しんでもらっているが、ホームでのデザートバイキングなども実施してみたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自宅で紙パンツを使用していた利用者も排泄パターンを把握すると共に行動で尿意を察知しスムーズに排泄ができ布パンツに移行できている。	○	今後も心身の状態に応じた対応をしていきたいと考えている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼間の入浴希望の方が殆どで毎日13:30～17:00頃まで個々のペースにあわせてゆっくりと入浴していただいている。	○	現在昼間入浴をして頂いており、利用者には満足して頂いているが夜間入浴も年に何回かは実施してみたいと思っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間は極力フロアで過ごして(活動)頂き、夜間は良く眠れるように支援しているが体調がすぐれない方には居室で休んで頂いたりしている。	○	今後も心身の状態に応じた対応をしていきたいと考えている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴から個々の趣味等を把握し、習字の得意な方には掲示物を書いていただいたり、家事がとくいな方には食事準備や縫い物などそれぞれの分野で役割を担ってもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり事業所で管理しているが、地域の行事や旅行には小額のお金を持っていただき、それぞれが好きなものを買っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の行事(花見等)やドライブ、買い物、外食にその日の心身の状態や各自の希望に沿って月に何度もかけている。	○	今後も心身の状態に応じた対応をしていきたいと考えている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話や昔懐かしい話のなかで行ってみたい場所を聞いたらミーティングでどのようにするかを話し合い実行している。また、本人の案内で自宅訪問をしたり、自宅に外泊時に墓参りや親戚の家を訪問してもらったりしている。	○	心身の機能が低下してきた場合でも家族と相談しながら出かけられるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚に電話を希望された時は職員が横に付き援助している。暑中見舞いや年賀状が届くと日常の様子を書いてもらい返信している。また、地域の行事に参加させて頂いた時にはお礼の手紙を書いて出している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間いつでも自由に訪問していただけるようになっている。日曜など多い日には10人ほどの訪問者がありフロアーや居室でゆっくりと話をしてもらっている。また、希望があれば家族に泊まっていたりも用いている。	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を発足させ会議やミーティングの場で現状を話し合っている。また、無意識のうちに心身の拘束がされていないかを確認し合っている。	○ 今後も勉強会等を行ない再確認しながら身体拘束のケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしておらず、併設のデーサービスや事務所からも人の出入りがわかるようになっており、利用者が外に出て行く気配があればそれとなく付き添うようにしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアーは利用者の様子が良くわかる建物の中心にあり職員はそこで記録など事務作業をしている。また、食事準備中や入浴介助時もフロアーに職員が1～2人居るような体制をとっており、利用者の安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や漂白剤などは利用者の目に付かない場所に置いている。包丁やはさみ、裁縫道具の利用時は職員が付き添っている。職員が1人になる夜間のみ台所や浴室に鍵をかけている。	○ 今後も注意の必要な物品の見直しを行い対処を職員と検討していくようにしたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員がヒヤリハットした場面の報告を受けたら記録し、なぜ起こったか、再発防止にはどのような対策が必要かを会議やミーティングで話し合い事故防止に努めている。また、新聞等で報道の記事が出ると朝礼で話し合い職員の意識を高めている。	○ 今後も事故を未然に防ぐ為、定期的に勉強会等を行い職員の意識を高めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の連絡網の周知や応急手当、初期対応などの外部研修等を交代で受けておりミーティング時などに、その都度他職員に研修内容を伝え、定期的に訓練等を行っている。	○	迅速に対応できるようにシミュレーション訓練を重ね、初期対応に誤りがないようにしていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の職員に来てもらい、非難訓練や消火器の使い方、消火訓練を定期的に行っている。また、散歩に出た時には「地震や火事の時にはここを通過して避難しましょう」と話し非難経路の確認を行っている。	○	災害等の報道があるたびに職員、利用者ともに避難方法の再確認を行うと共に地域の人々の協力が得られるように働きかけていく。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族から見れば外出や旅行に出かけること、包丁やはさみを使うことで安全が損なわれないか心配されることもあるが、このような日々の活動が利用者の表情を明るくしたり、心身の活性化につながる事を家族の訪問時に何度も話し理解をしてもらっている。	○	認知の進行状態を見極めながら包丁やはさみ等の使用を慎重に対応していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックはもちろんのこと、顔色や行動、食欲、排泄の有無しに注意し変化がある時は、家族に連絡を取ると共に提携医に上申し、受診や往診を受けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人が服用の薬の説明は個々のファイルに入れ、常時職員が把握できるようになっている。また服薬後は空袋をもらいきちんと飲んでいただけたか確認を行っている。薬の変更や状態変化があった時にはミーティングや申し送りノートに記載すると共に看護職員や提携医と連携が取れるようになっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し各人の排泄パターンが把握できるようにしている。また、普段から乳製品を含めた水分の摂取量や食事量、食材にも配慮している。薬剤に頼らず自然排便を促すためにも散歩や歩行訓練を毎日行い活動量が低下しないようにしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けをし歯磨きをしてもらっている。磨き方が不十分な方には介助や見守りを行い、義歯はよく洗い夜洗浄液につけておくようにしている。また、自歯の方は定期的に歯科受診をし歯石をとってもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	感染予防については十分に注意等を行っているがさらに徹底し、感染症発症を想定した研修等も行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○	今後も安全衛生の研修を受けたり勉強会を行いさらに安全衛生に配慮していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	今後も利用者の意向伺いながら季節の行事を取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○	利用者の様子を見ながら工夫もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が製作した絵や習字、また、外出時や家族と撮った写真などを飾っている。家具も使い慣れた物を自宅から持ち込み使用されている方もある。	○	それぞれの好みに合った居室作りをしていきたいと思っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度や湿度によりエアコンを使ったり、窓や天窓を開閉したりして換気や温度調節を行っている。また、個人の体感により座る場所にも配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身長や体型に応じ椅子に座布団や円座を使用しテーブルとの高さを調節している。物干しも利用者が使いやすいような高さに設定し自立に向けた支援をしている。	○	利用者の身体機能の低下に合わせ工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各人の居室には表札を掛けると共に、引き戸には好みの色で作った折り紙の名札をつけている。また、記名力低下の利用者には日記をつけて繰り返し読んでもらうなどしており、個々の力に応じたサポートをそれとなく行っている。	○	加齢と共に自立力も徐々に低下してくるが職員のサポート、創意工夫で最小限にとどめていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や花壇に花やちょっとした野菜を植え、手入れや水遣りをしている。物干し場は裏庭にあり利用者は足の運動を兼ねて洗濯物を干しに行っている。また、天気の良い日には玄関先にテーブルを出しオープンカフェを開き近所の方たちと交流している。	○	外回りや空間の活用を更に充実していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は<明るく元気に和気あいあい>をモットーに利用者に関わっており、介護相談員からいつ来ても<和気あいあい>の雰囲気を感じられ日によっての格差がなく居心地が良いとの評価を頂いている。施設は街中にあり、地域の人々が気軽に立ち寄ることができ、介護の情報やよろず相談場所として地域に溶け込み、地域のサロンの存在であり続けたい。